

平成26年度 肝疾患研修会 開催報告

山口大学医学部附属病院
肝疾患センター事務局
海田里菜

山口大学医学部附属病院肝疾患センターでは、山口県肝疾患診療連携拠点病院の事業として、毎年肝疾患診療に携わる方を対象とした、肝疾患研修会を開催しています。

この度、平成26年11月25日（火）にANAクラウンプラザホテル宇部にて、平成26年度肝疾患研修会を開催しました。附属病院の職員の他にも、院外の医師や看護師、薬剤師といった方々が計144名受講されました。

〔第一部〕「一般講演」

寺井 崇二 肝疾患副センター長を司会として、県（行政）・医師・看護師という、それぞれの立場から、肝疾患診療の現状報告が行われました。

本院からは、医師の立場として、肝疾患センターの日高先生が、C型肝炎の最新治療について報告があり、ウイルスを体内から排除して完全治癒を目指す原因療法と、肝機能を改善して肝炎の悪化を防ぐ対処療法について説明と、2013年12月に保険適応されたC型肝炎の最新治療 シメプレビル3剤併用治療法、2014年9月に保険適応されたダクラタスビル+アスナプレビル併用療法（インターフェロンフリーの治療）の紹介をされました。

県（行政）からは、山口県健康増進課の稲垣様が、陽性者フォローアップ事業、肝炎治療特別促進事業の説明をされました。

看護師の立場からは、看護部の原田看護師より、術前肝炎ウイルス検査陽性者に対するサポートの取り組みについて、活動報告と今後の取り組みについての報告がありました。

第一部では、本院の状況報告のみではなく、行政の立場や他医療機関の肝疾患診療支援についての報告を行う事ができました。

〔第二部〕「特別講演」

坂井田 功 肝疾患センター長司会のもと、熊本大学大学院生命科学研究部 消化器内科学教授 佐々木 裕先生をお迎えして、特別講演を行いました。佐々木先生からは、肝癌の治療について講演をいただきました。

「肝癌の治療成績向上を目指して」と題して、肝癌の最新治療、肝細胞癌に対する分子標的治療薬、肝癌治療のこれからの展開、肝細胞癌治療の現状と未来など、肝疾患を早期に発見する体制を整備し、専門性の高い肝疾患診療を均てん化することは、慢性肝疾患の進展や発癌の抑制に結びつくことと丁寧に解説いただきました。

質疑応答では、日常の肝癌診療業務において、苦慮している点についてアドバイスをい

ただき、大変有意義な講演となりました。

この度は、県内の医療機関の方々に研修会を受講して頂き、誠にありがとうございます。肝疾患センターでは、これからも医療従事者や市民の方々に向けた研修会を計画していきますので、多数の皆様の参加をお待ちしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

《研修会風景》

